



意欲的な態度で学習する生徒たち

一人一人の到達度がわかるように、  
○△×で記録し、各観点毎に到達率を出した。  
○はできる、△はアドバイスカれるとできる、×はできない  
(4) 授業終了前に自己診断表で自己評価させた。  
① 自己診断表のねらい  
ア、各観点を自己評価することにより、学習内容の到達度を明確にしたり、課題の取り組みが、意欲的だったかなど、情意面の評価ができる。  
イ、本時のつまずきの箇所がわかり次時のフィードバックの計画ができ、授業の展開を工夫することができる。

ウ、生徒の感想は、学習課題に対する意識を知る手がかりになる。  
エ、生徒は学習内容、態度の反省ができる。  
② 自己診断表の実践と結果の処理  
ア、学習課題が終了する毎に、各自五つの観点を三段階の評価基準でチェックさせ、感想もかかせた。  
イ、自己評価させた後、自己診断表を提出させ、観点毎、男女別に集計し、教師の反省資料にし、次時の授業に生かした。(資料4)  
(1) (三) 生徒一人一人の実態の把握  
一学年で実施した知能検査、学力検査、観点別到達度学力検査、一年年の評定を参考にして実態を調べ、個別に認知面と情意面の到達目標基準を設定した。(資料省略)  
(2) 個人内の情意を見る方法として、SD法による調査を理科アンケートという形で実施した。  
(3) 情意面は自己診断表や観察法、認知面は確認テスト、保持テスト、パフォーマンステスト、相互評価等で評価し、データをとり続けた。  
(4) 認知面は、上記の方法で得られた結果をまとめ、行動目標①〜④までを行動目標到達度として表を作成し、個人内到達率と行動目標到達率を出した。  
(5) 情意面の行動目標④⑤はレポート、ノート、予習の課題、自己診断表、観察法を用いチェックした。  
さらに、自己診断表の二つの観点、

資料4 自己診断表のまとめ (単元名：電流)

評価の観点の下の数字は生徒数 (上の段は男子の人数、下の段は女子の人数)

感想 内容	授業後の生徒たちの感想				
	学習へのとりくみ・意欲に関すること	学習内容に関すること	予習課題に関すること その他の事項	不満足だった	やりがいのある満足した授業だった
(1)電池のつなぎかたと、まめ電球の明るさを調べよう	1 6 13 2 8 12	1 7 12 3 10 9	0 8 12 3 11 8	2 8 10 4 7 11	1 15 4 3 17 2
(2)電流や電圧はどのように測るのか (操作法)	1 12 7 0 15 7	1 11 8 1 18 3	2 12 6 3 13 6	0 13 7 2 16 4	1 17 2 1 19 2
(7)電圧と電流には、どのような関係があるか (実験)	0 11 8 1 15 6	0 10 10 2 17 3	3 9 8 3 13 6		1 14 5 3 17 2
(8)考察 (グラフ化) オームの法則	2 13 5 1 14 7	0 12 8 2 16 4	4 6 10 5 11 6	2 11 7 3 9 10	0 16 4 3 14 5
(9)金属の抵抗は長さによってどちらがうか	1 12 7 1 12 9	0 13 7 2 13 7	1 12 7 3 11 8	4 12 4 1 11 10	0 16 4 2 17 3
(10)抵抗は太さによってどちらがうか (断面積)	1 14 5 3 14 5	0 12 8 2 15 5	2 12 6 4 11 7		2 13 5 4 17 1